

NHK海外情報発信強化に関する検討会（第6回）議事要旨

1. 日時

平成26年12月25日（木）13時15分～14時50分

2. 場所

総務省7階 省議室

3. 出席者

（1）構成員

多賀谷座長、青山構成員、鳶構成員、高島構成員、原構成員、平澤構成員、マリ構成員、水越構成員、山本構成員

（2）オブザーバ

岡庭外務副報道官（外務省）

（3）総務省

高市総務大臣、桜井総務審議官、安藤情報流通行政局長、渡辺大臣官房審議官、椿総務課長、長塩放送政策課長、湯本情報通信作品振興課長、金澤国際放送推進室長、吉田放送政策課企画官

4. 議事要旨

（1）高市総務大臣挨拶

（2）中間とりまとめ（骨子案）について

事務局より資料6-1-1、資料6-1-2及び資料6-2に基づいて説明が行われた。

（3）意見交換（構成員の主な発言は以下のとおり）

【多賀谷座長】

- ・ NHKワールドがターゲットとする視聴者によって、どのような番組が望ましいかは変わってくる。アジアでの情報ハブを目指す場合、アジアの人々にとってどういう番組が受け入れられるかを検討する必要があるだろう。

【青山構成員】

- ・ 反日工作についての指摘は反映されているが、「充実強化の方向性」の中に対応するものが取り上げられていない。少数意見であったとは思いますが、「充実強化の方向性」がないとなると、世論や世界に対して誤解を与えることを懸念。何らかの反映をしてもらいたい。個人的提案として、中・韓の反日工作に対してNHK国際放送で、「事実に反する放送がなされたときに、正当なフェアな説明、あるいは反論を行うような放送を期待する。」という内容を盛り込んでいただきたい。もちろん、日本の歴史全体に対する基礎的なフ

エアな情報発信で楽しめる番組というものも当然あると思う。

- ・ 番組制作の一部を委託されている J I B を活用し、国費の投入だけでなく、官民のファンドを作り、J I B の強化を図りながら番組制作を行うというやり方もあるのではないかと。また、受信料により海外発信を強化するのであれば、受信料を払っている人に対し、財源の透明性が確保される必要がある。

【髙橋構成員】

- ・ NHK の国際ニュースがアジアを代表するようなニュースという位置付けになるといい。なるべくニュースを中心に発信していくことが大事だと思う。
- ・ 民放も東南アジアでクールジャパンを中心として日本の番組を放送しているが、NHK はこの民放の放送との差別化も考える必要がある。民放は日本のスポンサーをつけることで成立しているとも聞いているが、民放がどのような放送をやっている、財源をどのようにしているかなど分かるとよい。
- ・ 受信料から国際放送の財源を増やすことについては、国際放送に受信料を使うということについて、受信料を払っている人たちに説明し、理解を求める必要がある。
- ・ ビジットジャパンをテーマにするのであれば、日本の地方ホテルに海外放送を入れてもらい、その中に NHK の国際放送も入れてもらうということが重要なのではないかと。日本に来た観光客は夜にすることがなく、(特に地方) 退屈しているという。また、主要国において、NHK の国際放送が見れるようにするための体制が重要。
- ・ 広く世界の情報を伝えると同時に、その中で日本の立場を伝えることが必要。その際、相手が何を言っているか全く無視して日本の主張だけを伝えると中国や韓国の放送と似たことになるので、なるべくオープンにしていくことを基本原則として考えるべき。

【高島構成員】

- ・ BBC などのようにディベートを通して問題を深掘りできるような番組がなく、そのような人材も不足している。日本人で、英語でそのようなことができる人材を登用して、外国の識者とディベートするような番組を作ることが重要だと思う。
- ・ 日本国内の認知度を上げていく上では、アプリ利用者数は余り増えておらず、テレビで視聴できることが重要なので、CS と合わせて BS の活用についても追記いただけないか。

【原構成員】

- ・ BBC マンチェスターのあるラジオ放送局では、私がリサーチした際、局長は、毎月、異なるコメンテーターを登場してもらうようにしていると話していた。日本で、英語で MC をしたり、英語でコメントをしたりする人は少ないが、メディア以外に目をやれば、人材はかなりいると思われる。いつも決まった人が出演するのではなく、多くの新しい人に出演をお願いしてみて、いい人を探し出すのもいいと思う。
- ・ NHK ワールドがアジア情報を発信する信頼できる代表的な国際放送という目標は素晴らしい。
- ・ BBC ワールドニュースとワールドサービスのマルチサービスの討論番組を見ていると、討論番組でも、一定の編集方針の下ならば、グローバルに意見を求めても、バランスのとれた

番組の制作可能なのではないかと考える。今年は終戦 70 周年にあたり、諸外国に日本の過去が批判的に取り上げられることが多々あるかもしれないが、こういう討議番組で日本の立場を主張していく方法もあるかと思う。

- ・ 海外で映像やメディア制作を学んで来た日本人や外国人からなる小規模なグループに、孫請けというような形ではなく、思い切って、番組制作を任せてみるというのもいいかもしれない。

【平澤構成員】

- ・ 日本国民がNHKの国際放送の視聴機会が少なく、世界への発信に耐えうる放送なのかという点が気になる。アプリであれば、電波に空きチャンネルがなくても視聴可能であり、日本国内でのプロモーションを行い、日本国民に放送を見てもらうことで、いろいろな意見が集められるのではないか。
- ・ 例えば、クールジャパンファンもそうだが、民間でコンテンツの世界発信をするネットワークがあり、NHKの国際放送が連携できれば、効率がいいのではないか。また、NHKのネットワークの有効活用についても方向性の検討とすることで、より戦略が明確になるのではないか。

【マリ構成員】

- ・ 日本の文化のコアの部分を伝えるような番組や、老後破産への対策・制度のような各国が興味を持っている番組について、もっと発信していくべきだと思う。
- ・ 日本の放送局として、番組編成をしているか。日本の文化、考え方、歴史について、正しい英語で伝えていくことができるかというのではないかと思う。日本の現状を日本人がどう見ているかということを伝えることがNHKの役割ではないか。
- ・ シンポジウム型の番組を、もっと積極的に放送してもいいのではないか。

【水越構成員】

- ・ NHK ワールド TV を見てもらうには、日本に興味を持ってもらって、それから認知してもらう必要がある。現状の認知度・視聴率の低さを考えると、まずは認知してもらうところにフォーカスすべき。
- ・ 認知度等の向上に向けて、何らかの数値目標を設定した方がいい。例えば、日本に興味がある人の中で、どれくらい認知しているか、そのうち見る人はどれくらいいるか等。
- ・ 受信環境整備については、ワシントン、ニューヨーク等の欧米地域だけでなく、東京、大阪も含めたアジアの主要都市のホテルも含めるべき。
- ・ ニュースの配信とコンテンツの配信は分けて考えて、後者は民間の取組を支援するというのに軸足を置いた方が効率的だろう。ニュースに関してはそうはいかないと思うので、NHK ワールドはニュースを中心とした方がいい。
- ・ 信頼される情報源を目指すことと、国や政府の代弁者的役割を果たすことはトレードオフの関係にある。

【山本構成員】

- ・ 今回の骨子案については全体として賛成。
- ・ アジアの情報であれば NHK ワールドが最も信頼できるという評価を確立することが大

事。長期的な信頼を得るためには、政府から一定の距離をとって、開かれた構造を取っていることを示していくことを確保することが必要。

- ・ 国外の機関との交流をさらに進め、どのようなニーズがあって、どのように見られているかということを常に意識しながら事業を展開することが必要。国内の視聴者も、もっと関心を持って日常的に評価をしていくと言うことが大事。
- ・ 実施体制や、長期的には財源、JIB の組織体制についても、今後更なる検討が必要。